

カトリック

# 広島教区報

No. 66

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
編集者  
澤野耕司神父

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教区館内  
TEL (082) 221-6017

## 新たなうねり始まる

八月五日、六日、そして九日の教区の平和行事には若者たちの積極的参加や、子どもたちのためのプログラム、聖公会からの参加など、新しい動きが生まれた。



8月5日 平和祈願ミサ

被爆六十周年を迎えた今年、世界平和記念聖堂が国の重要文化財に指定され、さらに

## 正義と平和全国集会 二〇〇七年秋 広島で開催の動き

今年十月に京都で開催される正義と平和全国集会を、来年は広島で開催して欲しいという、日本カトリック正義と平和協議会の要請が広島教区にあった。そして、これがまず第二回福音宣教推進本部会議に議題

としてかけられ、これを検討した。その結果、これらの広島教区の進むべき方向性として出された司教宣言「平和の使徒となろう」を実行するための絶好の機会になるとして、「平和推進チーム」を中心としてこ

四月の司教宣言「平和の使徒になろう」を受けて、新たな気持ちで取り組まれ、新たなうねりを見せた。

(関連記事4面と5面)

## 点訳ネットワーク 設立

九月十日の臨時教区宣教師協議会で、教区レベルの点訳ネットワーク組織、「点字の輪」(仮)発足が承認された。担当司祭は後藤正史神父。

点字翻訳のスペシャリス

の要請を受けたという意向を確認した。これを受けて、九月十日に臨時教区宣教師協議会を開き、そこで、来年の正義と平和全国集会開催を広島で受ける用意があることを、十月の全国集会で発表することとなった。正式にはそこで決定されることになる。

## 教区ホームページ 委員会も

これまで、「平和の使徒推進室」の下で活動してきた「ホームページ委員会」が、新たに「教区ホームページ委員会」として活動することになった。これは「平和の使徒推進

トである井上ゆり子さんの岡山教会転入をきっかけに、六月末に教区本部事務局に設置されていたパソコン点字翻訳の機械を、岡山教会に移し、岡山教会福祉委員会点字班を立ち上げた。その後、『教区報』や『教区本部事務局』からのお知らせ

「点字の輪」(仮)は事務局を岡山鳥取地区センターに置くが、今後は教区レベルの組織として他の教会にも呼びかけて活動を拡げる。

委員会が本部に格上げされたことに伴うもので、正式に教区レベルの組織になる。委員会は、教区の広報担当(澤野耕司神父)の下に、教区報編集部と並列して置かれ、教区内の各地区の宣教師協議会から二名以上の推薦された人を以て構成される。

**広島教区宣教司牧活動の基本方針**  
PRIORIDADES APOSTÓLICAS DA DIOCESE DE HIROSHIMA  
APOSTOLIC PRIORITIES of HIROSHIMA DIOCESE

**平和の使徒となろう**  
Sejamos Apóstolos da PAZ  
Let us become Apostles of peace

きょうどう Colaboração 養成  
平和 Paz Collaboração Formação  
Formation

個人・組織・グループの  
垣根を越えよう

主の平和の  
働き手となろう

キリストに向かって  
成長しよう

あなたの役割はどこにありますか?  
Já encontrou o seu papel?  
What is your task?

# 司教宣言を実現するために

## 第二回平和の使徒推進本部会議報告

八月十九日、広島カトリック会館で第二回平和の使徒推進本部会議が開かれた。会議はまず、前号六十五号の教区報に載せられた「推進本部の構成」等に誤りがあった点を確認し、広報担当に修正を求めた。そのほか、『司教宣言』を教区内に浸透させるために必要なポスターや祈りのカード、ガイドラインの小冊子の作成などについて話し合われた。

### 推進本部の構成

〔前号の本紙で、推進本部の構成と、推進チームについて、多々ミスや誤記がありましたことをお詫びします。訂正し正確な表記を再掲載します。〕

六月四日の教区宣教科司牧評議会にて承認され、司教から任命を受けた者は次の通り。

〔本部長〕

祇山 登さん (呉教会)

〔副本部長〕

鈴木 實さん (岡山教会)

柳 恵一さん (宇部教会)

澤野 耕司神父 (幟町教会)

〔本部長〕

佐々木良晴神父

(山口島根地区長)

齊藤 眞仁神父

(広島地区長)

後藤 正史神父

(岡山鳥取地区長)

〔事務局〕

事務局員：竹内 秀晃さん

(幟町教会)

担当司祭：肥塚 倅司神父

(元平和の使徒推進室長)

### 推進チームの担当

〔前号では「実行チームの責任者」となっておりますが、正確には「推進チームの担当」です。〕

七月十五日の第一回平和の使徒推進本部会議で決定した推進チームの担当は次の通り。

〔平和推進チーム〕

担当者：祇山 登さん

協働司祭：齊藤 眞仁神父  
〔きょうどう推進チーム〕

担当者：鈴木 實さん

協働司祭：後藤 正史神父

〔養成推進チーム〕

担当者：柳 恵一さん

協働司祭：佐々木良晴神父

なお、前号の「在住外国人生活支援窓口」は誤りで、正確には「在住外国人共生支援窓口」(仮称)です。

### 小冊子の作成

平和の使徒推進本部会議は、四月の司教宣言『平和の使徒となろう』に関係する教区の動きをさらによく理解してもらい、司教宣言を浸透させるために、一冊の小冊子『ガイドライン』を作ることを決定し、その準備を始めた。

『ガイドライン』には、教区代表者会議までの準備の段階、教区代表者会議からの司教に対する答申、そして司教宣言の発表など、これまでの流れのまとめと、これからの具体的目標や指針を掲載することになる。しかし、その内容のほ

とんどはこれまですでに発表されており、これらをまとめる形になる。

また、今後の動きを随時まとめて、シリーズ化して発行することも考えられている。

### パソコン用 スライド作成

前出の小冊子の基礎資料となるもので、教区代表者会議に向けて作られたパソコン用スライドに手を加えたもの。すでにほぼ完成されている。教区代表者会議は何であったのか、司教宣言では何を呼びかけられているのか、これからそれぞれの地区や小教区で何をしていたらよいのかなどが、パソコンによるスライド映写用にまとめられている。

### 司教公式訪問での 利用呼びかけ

この音声入りスライドは、司教公式訪問での司教の直接の呼びかけと一緒に、説明のために利用されることを主眼として作られた。

しかし、小教区によってはパソコンのパワーポイント映写のための人材や機械がないことも考えられるので、そのような場合には、地区センターなどを通して平和の使徒推進本部に頼めば、出向いて協力することができるとも整っている。

### ポスターと 祈りのカード

ポスターは一面下に掲載。英語とポルトガル語の表記もあり、「きょうどう」を実行するために滞日在外国人信徒のためにも配慮された。

祈りのカードは解説と一緒に次のページに掲載。祈り文の裏面はポスターの図柄となり、小冊子『ガイドライン』には祈りの解説も入る。

祈り

『平和の使徒となろう』

(二〇〇六年『司教宣言』に込めて)

十

父である神よ、あなたは広島教区民の私たちを、主イエスがもたらされた平和の福音を伝えるために、特別に召しだして下さいました。

あなたに祈り求めます。

「私たち教会」が、キリストの土台の上に「平和」「きょうごう」「養成」の三つの柱をすえて、ますますイキキとした信仰共同体へ成長することが出来ますように。

私たち一人ひとりが、私に与えられている恵みの力を活かしながら、主においてひとつになり、福音宣教に邁進することが出来ますように。

神よ、あなたの聖霊の息吹を新たに送ってください。そして、私のうちに福音宣教の熱意を燃え立たせ、「キリストの平和の使徒」として遣わしてください。

私たちの主、イエス・キリストによって。

アーメン。

(カトリック広島司教区 平和の使徒推進本部)

【解説】

※1 キリストがもたらした福音は、神の国の到来であり、神における平和、主の平和そのものです。福音宣教は

つまり、主の平和を告げ、キリストと共に平和を生み出してゆくことです。

教皇ヨハネ・パウロ二世は『平和アピール』の中で、「ヒロシマを考えることは平和に対しての責任を担うことです。」と述べました。また『司教宣言』は、「広島教区における宣教司牧の基本方針」で、まず、「平和の使徒となろう」を広島教区の固有の召命とし、あらゆる活動の源泉であるとししました。

※2 福音宣教に派遣されている「教会」とは、私たち自身であり、それ以外の何ものでもありません。二〇〇五年の『復活祭のメッセージ』の中で、教区代表者会議の意義を述べる際、三末篤實司教は「私たちが教会である」ことを強く意識するよう訴えています。

※3 私たちのすべての活動は、常にキリストという土台の上に、キリストと共になされなければなりません。

※4 二〇〇二年の『教区大会』以降のいくつかの行事や、特に教区代表者会議の準備の中で、「私たち教会」の現実と現状が浮き彫りにされました。そして、そこから五年後、十年後の教区の姿を見据えたとき、見えてきたものを『教区代表者会議』は、司教に提言しました。これを受けて『司教宣言』は、「平和」「きょうごう」「養成」を三つの柱とすることを宣言しています。

※5 教区代表者会議は、一人ひとりの信仰をイキキさせ、教会の明日の宣教を考える集いであるということ、そのテーマを「信仰イキキ 明日の教会」としました。教会はそのような信仰共同体です。

※6 教会のメンバーである私たち一人ひとりには、カリスマと呼ばれる神様からの固有の恵みと力が与えられており、それを活かし、キリストにおいて一致して働くときに、教会の福音宣教の使命が果たされてゆきます。

※7 とは言え、他の誰かではなく、私自身が聖霊によって満たされ、派遣されてゆくという自覚を神は望まれています。

『負った子に 教えられて』

J・C・A・R・M 広島担当

春日 圭子

平和行事を終えて子どもたちを家まで送って行く時のこと。家に帰っても誰も居ない子どもたちばかり。

そこで、お昼ご飯はラーメンを食べに行こうということになった。

大歓声と共に食堂へ。

皆は、ペルーから日本へ来たばかりの子のために、ポルトガル語とスペイン語で話しはじめた。突然、五年生の女の子が言った。「これじゃ、何を話しているか、シスターには分からんじゃん。」

ラーメンが咽につかえるほど嬉しかったし、驚いた。

悲しいかな、大人にここまで心配りが有るだろうか。同じテーブルに、話の通じない人が居ることに、どれほどの人が気付く事が出来るだろうか。

外国籍やダブルの人達との共生だけでなく、病気や、認知症、障害者の方々の共生生活の中でも大切にすべきことを教えられた。

# 2006 平和行事

《教皇ヨハネ・パウロ二世来広二十五周年》

## 伝え続けよう 私たちが

### — 真実・正義・慈愛 —

今年には広島に原子爆弾が投下され六十一年目。八月五・六日を中心に行われた平和行事には、全国各地から多くの方が参加し、戦争の恐ろしさと平和の尊さを学び、平和の使徒として働く各自の役割を再確認することになった。本年は特に子ども・若者のためのプログラムが充実していた。

### 被爆者証言

己斐で被爆した森重昭さんが証言を行った。爆発直後の閃光のすごさ、キノコ雲、死体、校庭での火葬、自ら被爆実態調査を行っていること等を含め、原爆投下の悲劇を生々しく聞くことができた。若者たちには大きな衝撃の様子であった。



被爆者証言

### 子どもたちによる 平和のメッセージ

平和行事で初めて子ども向けのプログラムが開かれた。参加者は四十人ほど。テーマは「ひかり」。聖堂探検とピースキャンドル作りを通じて、聖堂が建てられた意味や平和への思いを感じ、平和への祈りを深めた。



聖堂探検

た。将来平和のために働く人になってほしいという思いを込めて、日曜学校のリーダーや青年が企画した。聖堂探検は、世界平和記念聖堂やヨハネ・パウロ二世の像などの案内を青年が行った。ピースキャンドル作りは、ペットボトルを切ったキャンドルホルダーにマジックやシールを使って思い思いに平和へのメッセージを表現した。このピースキャンドルは、同日の平和祈願ミサの時に子どもたちの手で奉納された。

た。将来平和のために働く人になってほしいという思いを込めて、日曜学校のリーダーや青年が企画した。聖堂探検は、世界平和記念聖堂やヨハネ・パウロ二世の像などの案内を青年が行った。ピースキャンドル作りは、ペットボトルを切ったキャンドルホルダーにマジックやシールを使って思い思いに平和へのメッセージを表現した。このピースキャンドルは、同日の平和祈願ミサの時に子どもたちの手で奉納された。



高校生による聖堂案内

### 高校生による 世界平和記念聖堂 案内

国の重要文化財に指定された世界平和記念聖堂の案内を、ノートルダム清心の高校生二十五名が行った。中でも英会話クラブの部員は英語での案内をした。

生徒たちは、「喜んで準備をしておけばよかった」「アメリカ在住の方に英語でガイドをしたが、うまくできないところもあった、もっと英語を勉強しよう！」と感想を述べ、また機会があれば、やりたいと話す。引率した神垣先生(観音町教会)は「素晴らしい機会を与えてくださって感謝します。信者以外の方か



原爆供養塔前 祈りのつどい

ら教えていただくことも多く、お互いがつながっていることがよくわかりました」と話す。

### 《原爆供養塔前》 祈りのつどい 平和行進

平和公園供養塔前の祈りは、昨年までは未来にむけてであったが、本年は「過去を振り返って黙想し、現実を見て、未来に進もう」という気持ちで祈った。また本年は献花ではなく、「すべてを新たにする、洗礼、命」等いろいろな意味をもつ尊い「水」を奉納した。その後平和記念聖堂まで、約五百人が五十分かけて、広島市中心部の繁華街を、聖歌をうたいながら行進し、平和をアピールした。



平和公園を行進中

### 平和祈願ミサ

本年は、名古屋（野村司教）、京都（大塚司教）、大阪（池長大司教、松浦司教）、高松（溝部司教）、長崎（高見大司教）の各司教および全国各地からの信徒の方々、さらに日本聖公会から中村豊主教（神戸教区）と谷昌二主教（沖縄教区）と二百人余の信者の方々、合計約七百名が参列して平和祈願ミサが執り行われた。

第一朗読は聖公会の信徒が読み、説教も中村主教が行い、自らを捧げて、平和を建設しようと訴えた。聖堂通路に座って参列している京都教区の子どもたちの眼差しが印象的であった。



説教する中村主教

### 原爆犠牲者追悼の祈り

八月六日の八時から朗読とパントマイムを使った祈りが行われた。これは正義と平和協議会編小冊子『戦後六十年平和の祈り』に収められている「創造と反創造の祈り」を展開させ、争いのない世界の実現を願って制作された。協調と和解をはぐくもうと風船や花かざりを用いて、会場の人たちの中に入って、出演者のみならずみなが共に祈りをささげた。

九時半からはミサが行われた。説教は南山大学のマ

### 祈りの集い (テゼの祈り)

八月五日の夜、青年が中心となり「光が世に来た」をテーマに大聖堂でテゼの形での祈りをした。

聖堂の灯りをおとし、蠟燭を囲んで祈りをささげた。今回は、毎月三篠教会でテゼの集まりをしている方々とシスター・コンソラが中心となって進めて、

イケル・シーゲル神父（神言会）が行い、オーストラリア人の父親が体験した戦争体験にも触れ、表面的には異なっているも人間はみな同じであること、神様は一人ひとり愛してくださる、全ての人に同じ愛を注いでくださっている、他人の苦しみに無関心であるならば、私たちは神の愛に気付いていないことなどを話した。



パントマイム

伴奏は青年たちがギター・キーボード・チェロ・ヴァイオリン・リコーダーを担当。聖堂に置く蠟燭も青年たちの手作りであった。

参加した広島地区の青年は「歌や朗読を聞きながら静かに祈ることができた。」「テゼの祈りにあまり参加したことはなかったが、平和について考え祈ることができてよかった。」などと語っていた。

### 『憲法第九条』は 世界平和構築の礎

八月六日の原爆犠牲者慰霊ミサの後、講演会が行われた。

講師は神言会司祭で、名古屋の南山大学総合政策学部助教授・シーゲル神父。

昨年九月に日本とオーストラリアの間の国際関係をとり上げる南山大学でのワークショップが南山大学で行われた。そこで、たびたび話題となったのが日本の憲法九条であった。そして今年二月

### キリスト者平和の祈り

八月六日午後二時、『八・六キリスト者平和の祈り』が世界平和記念聖堂で行われ、二百五十名が参加した。

この集いは、カトリック広島司教区、日本キリスト教団広島西分区、広島市キリスト教会連盟の超教派の主催によるもので、今年で二回目。祈り、メッセージ、音楽で構成されている。

今年のメッセージは、自ら被爆者である長谷川儀神

に、その議論だけを取り出してまとめられた『憲法九条に関する一考察』が南山大学から発行された。

講演はこれを中心に進められ、一国が安全保障を強めれば、その安全が脅かされると考える周りの国々も安全保障を強めるといふジレンマと、そこから始まる際限のない軍拡競争の現実が理論的に説明された。そして「憲法九条」こそがこれをストップさせ、真の世界平和の構築の礎となるであろうことを強調した。

父。また、バイプオルガン、ハンドベル、チェロによる演奏や、聖歌の斉唱などを通して祈りを深めた。

### 8月9日 長崎原爆犠牲者追悼ミサ



平和記念聖堂（地下）にて 約50名参列

# 日韓交流

この夏は、神学生や青年、そして中・高生が、広島教区と姉妹縁組を結んでいる釜山教区との交流などを行った。

## 神学生

九月五日から七日まで、広島教区の神学生たちは韓国の釜山

教区を訪れ、神学生や信徒との交流を行った。夏休みが終わった釜山教区の神学院では夕の祈りなどを一緒に、夜の交流会ではそれぞれの神学院の様子などを分かち合った。



の十九人が、釜山教区でサッカーの親善試合を行った。神学生との対戦は八対四で広島教区チームが勝った。「釜山サッカー宣教団」との対戦では、五対五の引き分け。「サ

## 日韓合同キャンプ

釜山・南川教会と



山口教会でのミサ

## 青年はサッカー親善試合

九月十五日から十七日、青年、司祭、淳心会神学生



ッカー宣教団」からは記念の盾をもらい、今後の交流を誓い合った。

## チャリティーコンサート

八月二十六日、エリザベト音楽大学セシリアホールで、広島・釜山・インファンタ三姉妹教区チャリティーコンサートが行われ、六百人の入場者があった。

これは、二年前のフィリピン・インファンタの台風災害救済と三姉妹教区の交流を目的としたもの。収益金のうち百万円をインファンタに送ることとなった。



チャリティーコンサート出演者

## 新刊紹介

昨年十二月に、「本当のクリスマスの意味を伝えたい」という、シスター・フランチェスカ（キリスト・



(有)文化評論 1,524円

イエズスの宣教会85歳)の熱意に動かされた防府教会と祇園教会の信徒たちの協力で発刊されました。

## 海峡からの風4

下関労働教育センターだより

●日本銀行の支店、貯金事務センター、水上警察署。この三つの施設が下関にある。●92年。日本軍の「慰安婦」をさせられた文玉珠さんの支援が下関で始まった。彼女は「慰安」の代償として支払われた軍用手票(戦場での通貨)を、軍事郵便貯金に預金した。兵隊から「下関で管理されている」と聞かされていた。下関郵便局を訪れた彼女は「お金が欲しいのではない、このお金が日本にあり続けるのが嫌なのです。」と訴えた。●貯金事務センターの前身が旧通信省の「下関貯金局」だ。彼女の貯金原簿は存在していた。実は三つの施設は、戦前日本が重要拠点とした地域に置かれた。下関はアジア侵略の最前線だったのだ。●時を経て、センターにはアジアの様々な国から人々が訪れて来る。台湾の労働者、強制連行の跡地を巡礼する韓国の大学生。日本軍が残した化学兵器の惨状を訴える中国人。市内の留学生達。●

身振り手振りでお互いを知らうとすることが楽しい。「優しい日本人がいたんだ」と号泣するソウルの学生に、日本人も嬉しくて泣いた。●貯金返還の訴訟を起こす説明会をセンターで開くため、文玉珠さんはセンターに泊まった。夜の交流会で彼女はチャンゴ(朝鮮の打楽器)を叩き、歌を披露した。「わたしは太鼓の名人と言われたんだよ」。自慢げに笑う文玉珠さんの笑顔。●その横顔に彼女が抱き続けた苦しみを思う時、思った。「慰安婦問題」などではないのだ。イエズスの生涯を辿るように、その人の大切な人生に自分の人生が重ねられていくのだ。この体験が、社会問題の関わり方を教えてくれた。●彼女は今、故郷の大邱で眠っている。

(細江教会・廣崎隆一)



写真「ベレンで巡る世界のクリスマス」著者 樺師団の「慰安婦だった私」(梨の木舎刊)より



八月十日～十二日、米子教会で教区練成会が開かれ、小学五年生く中学三年生まで五十人の子どもたち

### 壁のない世界

フィリピン インファンタ教区を訪問して

私は八月十六日～二十四日にあつたインファンタ教区訪問に参加しました。英語が苦手な私はとても不安でしたが、インファンタ到着後、それをすっかり忘れてしまいました。向こうの人は私が「わからない」という顔をして熱心に話しかけてくるし、同じことを私がわかるまで何度も話してくれました。近所の青年たちと一緒にバスケットボールをしたことも楽しかつ



(幟町教会・川野 真彰)

が集まり、「Mission 私を遣わしてください」のテーマのもと、神父様やシスターのお話を聞いたり、自分たちのロザリオを作ったりしました。「私も神様のために仕事がしてみたいと思った。」「神様のことを学校で友達に話したりして、もっと知ってもらえるように少しずつ頑張ろうと思います。」「他の県や教会の人と仲良くなれてよかったです。」

### Nature World in 笠岡 Vol.8

八月二十六日～二十七日、笠岡教会で「第八回 Nature World」が行われた。参加者は青年・中高年生・笠岡教会の皆さん。テーマは「次世代に伝えよう、神様がくれたもの。」

一日目はフェリーで白石島に渡り、聖書朗読、分かち合い、海水浴、釣りなどを楽しんだ。夕方教会に帰り、聖堂でスメット神父と晩の祈りをささげた。

二日目は青年が主体となり主日のミサを行った。ミサ後恒例の「おわかレー、おつかレー」を笠岡教会の方々と一緒に作った。

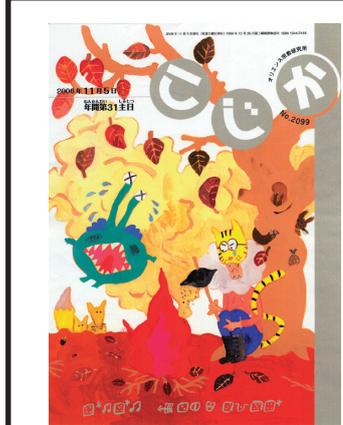
今回の合宿を通して、司祭、信徒、若者が一つのことに対して一つの思いがあり、そしてそこにキリストがいて一つになれたと思う。そして今回限りで Nature World は幕を閉じることになった。長い間ありがとう。また、いつか、「やろうよ」と声がしたら…。

岡山青年連合 山本 厚治

### カトリックの雑誌 ⑤ オリエンズ宗教研究所 『こじか』

「パンピの生みの親デイズニーはまだ知りませんが、こじかのパンピはいよいよ十一月から日曜学校へゆくことになりました」

一九五八年、こんな一文で創刊を告げた『こじか』。以来、子どもたちに神さまの愛を伝えることを目的に毎週日曜日に刊行されています。でも、この創刊は子どもたちだけのためではありませんでした。同時に、子どもを通しておとなも成長してほしいという願いもこめられていたのです。『こじか』や教会学校で神さまのことを学んだ子どもが質問を發すれば、おとなもまた考え、学んできます。「子どもは宣教



者」と言われるゆえんはここにありますが。子どもとおとなが一緒に育ち合う―そのための『こじか』には、保護者や教会学校リーダー向けのページもあり、ご家族そろってお読みいただけます。毎号、主日の福音解説を中心にさまざまな記事で構成されていますが、それらを通して感謝する、ゆるし合う、共感するなど、子どもたちがイエスさまのことばと行動に基づいた人間らしい良さを感じ取れることを編集の主眼としています。『こじか』は一体どのくらい長生きするのでしょうか。動物事典で寿命を調べてみようという方はいませんか。創刊時の広告には少し不安が漂っていましたが、おかげさまで今年で四十八歳。元氣いっぱい走り続けています。教会学校での副読本としてのほか、一部から確実にご自宅までお届けする個人購読も常時お受けしています。

●オリエンズ宗教研究所  
（電話）〇三―三三三二  
二―七六〇一

# ネットワークミーティング 大阪

九月十六日・十七日、兵庫県の宝塚市で第十一回ネットワークミーティングが開催されました。ネットワークミーティングは全国の青年が集まり、毎年二回開かれていきます。今回は百五十人の青年が全国各地から集まりました。広島教区か

らも六人参加しました。今回のテーマは『探しに行こうや』でした。一つのグループを一家族と見立て近隣の教会まで電車で家族旅行をしました。途中家族写真を撮ったり、他の家族へのお土産を買ったりして家族（グループ）の絆も深



グループで分かち合い

まりました。またシスター

の指導のもと、祈りや分かち合いの時間も持ちました。若者の教会への想いや悩み、これからの希望など沢山のことを話しました。今回の集まりで全国の若者の素晴らしいパワーを感じ刺激を受けました。これからの教会や青年の活動に少しでも活かせたらと思います。

## お知らせ

ソフトボール大会にチームを組んで出場しませんか

十一月三日午前十時

場所 芦田川河川敷

会費 弁当あり千円

弁当なし五百円

雨天の場合は屋内行事

宿泊については応相談

是非チームを組んでご参加ください。申し込み等、詳しくは各教会配布のチラシ参照のこと。



暑い夏が過ぎ、そこかしこから秋の虫の声が聞こえてきます。

八月の平和行事では、聖公会の方たちの参加もあり、また子どもや若者の参加も目立ち、今後への新たな希望がうかがえました。

夏の暑い日ざしのような強い平和への想いが、秋の空のように深い静かな祈りとなって継続されますように。

(よ)



## 『私の道を変えた神様』

イエズス会士  
益田教会  
キリストバル・バリヨヌエボ神父

大学一年生の時、司祭になることは夢にも思いませんでした。しかし霊操を行うことになり、有名な『過ぎ行く王』、キリストの『国』の観想の中にキリストの呼びかけを感じ大きな恵みに流されて、キリストに従う決心をしました。その決心を強めるまで色々

な戦いがありました。女性への憧れ、家族から離れることは一番大きな悩みと妨げでした。けれど大きな恵みにより第一の交差点でした。

どの様にキリストに従うか最初に考えたのは、スペイン内戦後に大都会に貧しく生きる人々の中で、教区司祭として働くという形でした。少しだけその貧しさを見た事がありました。一番大きな貧しさは真の神とキリストを知ら

ない事でした。スペインにはたくさん司祭がいましたが、多くの国には司祭が非常に少なかったのです。外国で宣教師としてキリストに貢献することは良い道だと考えるようになりました。そして宣教師になる為に、イエズス会に入る事を決意しました。これが私の第二の交差点でした。

第二次世界大戦の中で、日本に来る可能性は非常に低いものでした。しかしスペインの修練院で、津和野の教会で御聖体を拝むという務めが私に決まりました。何度も津和野の町と教会はどういう所だろうと思ひながら祈りました。

新しい交差点がありました

た。戦争が終り、スペインで歴史を教えることが決まりました。母は心臓が弱いので心配しましたが、神様を信頼し、目上の方に「私を選んで下さいましたら喜んで日本に参ります」と申し出、その中に入りました。こうして広島教区で五十年間を歩む事になりました。結局、神様は一生涯静かにけれども力強く愛を持って私の道（誰でも道は同じです）を何回も変えて下さいました。